

令和2年度勝央美術文学館特別展 額田六福生誕130年 岡本経一没後10年

大衆と共にある

劇作家 額田六福展



2020. 11.17 TUE - 11.29 SUN

開館時間 / 10:00~18:00 (入館は17:30まで)

休館日 / 月曜日 (祝日の場合は翌平日)

観覧料 / 一般300円 * 20名以上の団体は2割引 大学生・高齢者 (65歳以上) 100円割引 * 要証明書提示
高校生以下無料 * 割引きの併用は不可

主催 / 勝央町、勝央町教育委員会

後援 / 勝央町文化協会、(公財)美作学術文化振興財団、山陽新聞社、津山朝日新聞社、テレビ津山

勝央美術文学館 
SHOO MUSEUM OF THE ARTS

額田六福画像：昭和10年(45歳)頃の額田六福 講談社撮影
渡辺やえ子 編『額田六福戯曲集』(青蛙房、1969)
額田六福署名：『額田六福書簡 曾武楽三宛』より
背景画像：額田六福「No.2集」表紙部分

額田六福生誕 130 年 岡本経一没後 10 年

大衆と共にある

劇作家 額田六福展

勝央町出身の劇作家・額田六福^{ぬかだろつぶく}の生誕 130 年と、同じく勝央町出身の出版人・岡本経一^{おかもときょういち}の没後 10 年を記念し特別展を開催いたします。当館が所蔵する 2 人の関連資料を、書籍・草稿・直筆資料・遺品など約 60 点を展示します。

額田六福は、劇作家・小説家・岡本綺堂^{おかもときどう}に師事し、大正中期から昭和の初めにかけて商業演劇の第一人者として活躍。大衆の求めるものを生み出す姿勢を貫いた六福の仕事を紹介いたします。併せて、六福の娘で翻訳家の額田やえ子^{やえし}の資料も展示します。

岡本経一は、同郷の劇作家・額田六福の紹介で、岡本綺堂家の書生となります。後年、綺堂の養嗣子となり、綺堂最後の直弟子となりました。出版社・青蛙房を創業し、綺堂の作品と江戸の文化を後世に残した経一の出版書籍をご紹介します。

*養嗣子：民法旧規定で跡継ぎの養子のこと。



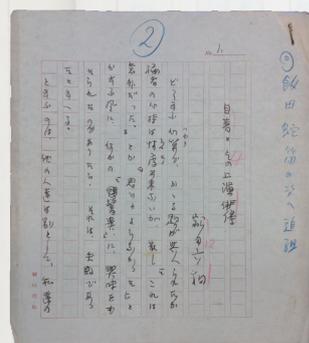
額田六福『真如』(文泉堂書店、1922)



額田六福『天一坊』(春秋社、1926)



額田六福『児童劇集 光の塔』(愛育社、1946)



額田六福草稿「自著とその上演俳優」



額田 六福《劇作家》

(ぬかだ ろつぶく、1890 - 1948)

明治 23 (1890) 年、現在の勝央町勝間田に生まれる。実家は質屋で、町一番の地主でもあったので、とても裕福な家庭で育つ。17 歳の時に掌関節炎を患い右手首を失う。また脊椎カリエスにも冒され、脚本作家志望の意を固める。

岡本綺堂に師事し、上京して早稲田大学英文科に編入学。大正 5 (1916) 年雑誌「新演芸」が、歌舞伎座用脚本を募集し、坪内逍遙が選にあたるというので前評判が高く、その第 1 等が額田六福の「出陣」に決定した。

以降「小堀丸」「冬木心中」「真如」など次々に上演される。新国劇の俳優 澤田正二郎と組み大成したが、澤田が急逝。先に澤村宗之助も失い、十三世守田勘弥の死と、相次ぐ 3 人の俳優の不幸に見舞われ、遂に師・綺堂をこえることはできなかった。

昭和 23 (1948) 年逝去。享年 58。昭和 48 年、勝央町名誉町民に追贈される。

平成 19 (2007) 年に勝央文化ホールで上演された緒形拳によるひとり舞台「白野」は六福翻案の「白野弁十郎」を基にしたもので六福の最も代表的な作品である。

代表作:「冬木心中」(1922)「真如」(1922)「白野弁十郎」(1926)



岡本 経一《出版人》

(おかもと きょういち、1909 - 2010)

明治 42 (1909) 年、現在の勝央町岡に生まれる。旧姓 森部。大正 12 (1923) 年上京。同 14 (1925) 年、同郷の額田六福の紹介で岡本綺堂家の書生となる。

昭和 12 (1937) 年、子どものなかった綺堂夫妻は、真面目で実直な性格の経一を見込んで養嗣子とした。

綺堂の死後、戦争の混乱期を経て、出版社「青蛙書房」を立ち上げるが倒産。綺堂の 17 回忌の昭和 30 (1955) 年に「青蛙房」を再び立ち上げた。本の製作では、企画・編集・校正を自ら行い、昭和 42 (1967) 年、江戸時代風俗研究書の出版活動が認められ、第 15 回菊池寛賞を受賞。また平成元 (1989) 年には、『岡本綺堂日記』、特に続編の「綺堂戯曲年表」が評価され、第 24 回長谷川伸賞を受賞。

平成 22 (2010) 年逝去。享年 101。

主な出版物:「私のあとがき帖」(青蛙房、1980)『岡本綺堂日記』(青蛙房、1987)



額田 やえ子《翻訳家》

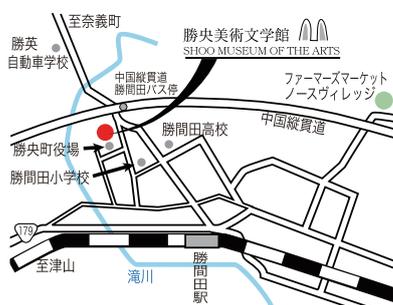
(ぬかだ やえこ、1927 - 2002)

昭和 2 (1927) 年、東京に劇作家 額田六福の長女として生まれる。本名 渡辺栄子。

日本女子大学卒業後、学校法人アテネ・フランセで英語を学び、昭和 27 (1952) 年スタア社に入社。その後、翻訳家、日本語版台本作家として活躍。「刑事コロポ」の「ウチのカミサン」という言い回しは、やえ子の独創で、コロポ独特の喋り方も人気を博し、1987 年度日本女性放送者懇談会賞(現:放送ウーマン賞)を受賞。平成 14 (2002) 年逝去。享年 74。

代表作:「刑事コロポ」「刑事コジャック」「シャーロック・ホームズの冒険」舞台「奇跡の人」「十二人の怒れる男たち」

背景画像:額田六福「No2 集」部分



ACCESS

- 鉄道: JR 岡山駅(津山線)→津山駅(姫新線) →勝間田駅下車徒歩 15 分
- バス: 中国ハイウェイバス JR 津山駅より 15 分 新大阪駅より 2 時間 15 分 《中国勝間田》下車徒歩 5 分
- 自動車: 中国自動車道 津山 IC より約 15 分/美作 IC より約 10 分 勝央 IC より約 5 分
- 飛行機: 岡山空港から車で約 1 時間 10 分

【お知らせとお願い】

開館日は、新型コロナウイルス感染状況により変更の可能性があります。最新の情報は、勝央美術文学館のホームページまたはフェイスブック、ツイッターをご確認ください。発熱や咳などの症状のある方は入館をご遠慮ください。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスクの着用等にご協力ください。

勝央美術文学館 SHOO MUSEUM OF THE ARTS



公式 WEB

〒709-4316 岡山県勝田郡勝央町勝間田 207-4 Tel. 0868-38-0270 Fax. 0868-38-0260